

# 自動車検査の高度化と 自動車関連情報の利活用について

平成26年3月20日(木)



**自動車検査法人**  
National Agency of Vehicle Inspection

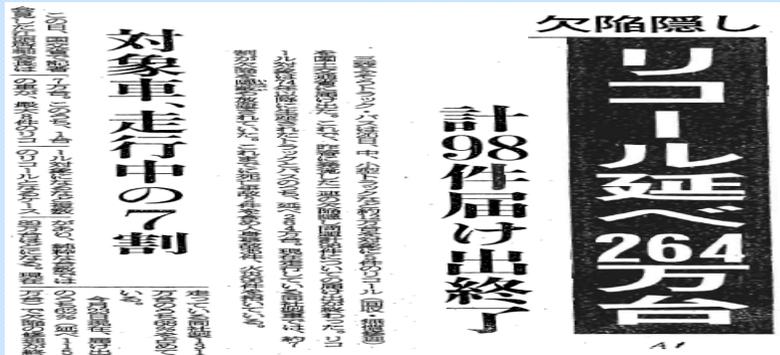
# 検査の高度化の背景

1. 荷台架装メーカーが最大積載量を水増しして、不正に車検証を取得する不正車検が続発



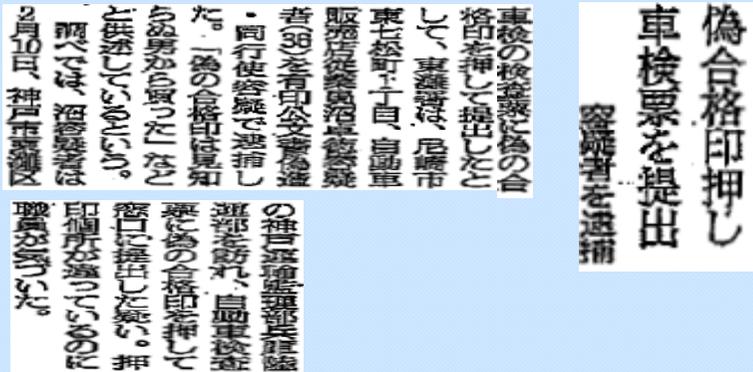
H17.12.20 読売新聞

2. リコールに係る不正事案の発生



H17.9.27 朝日新聞

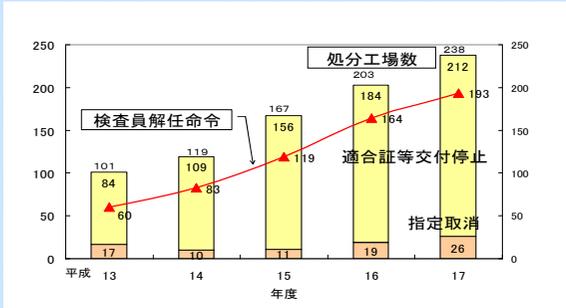
3. 検査場での検査票の偽造・改ざんが横行



H16.3.3 朝日新聞

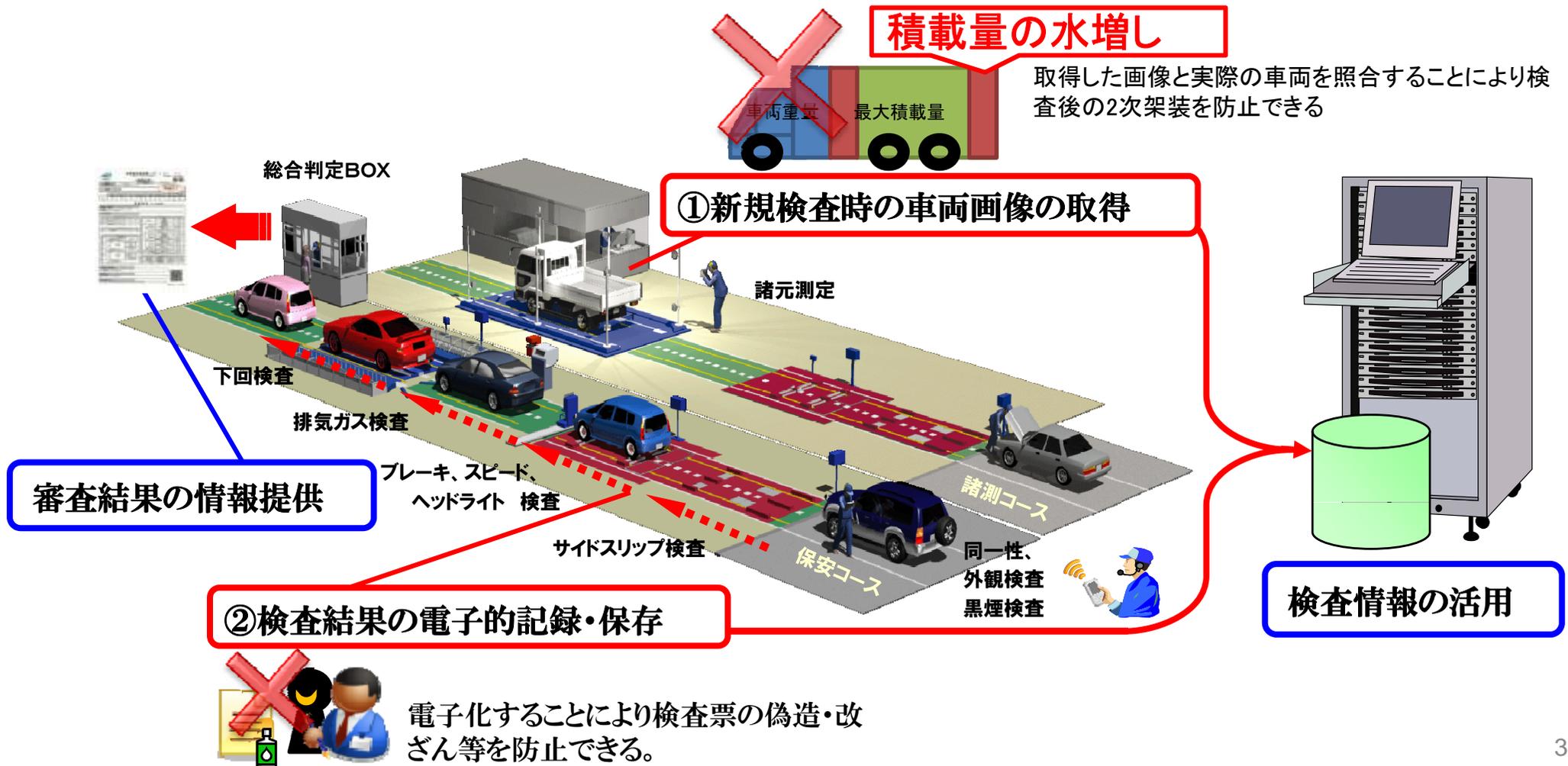
4. 指定整備工場の不正事案の発生

(指定整備工場の処分増)



# 高度化施設の主な構成

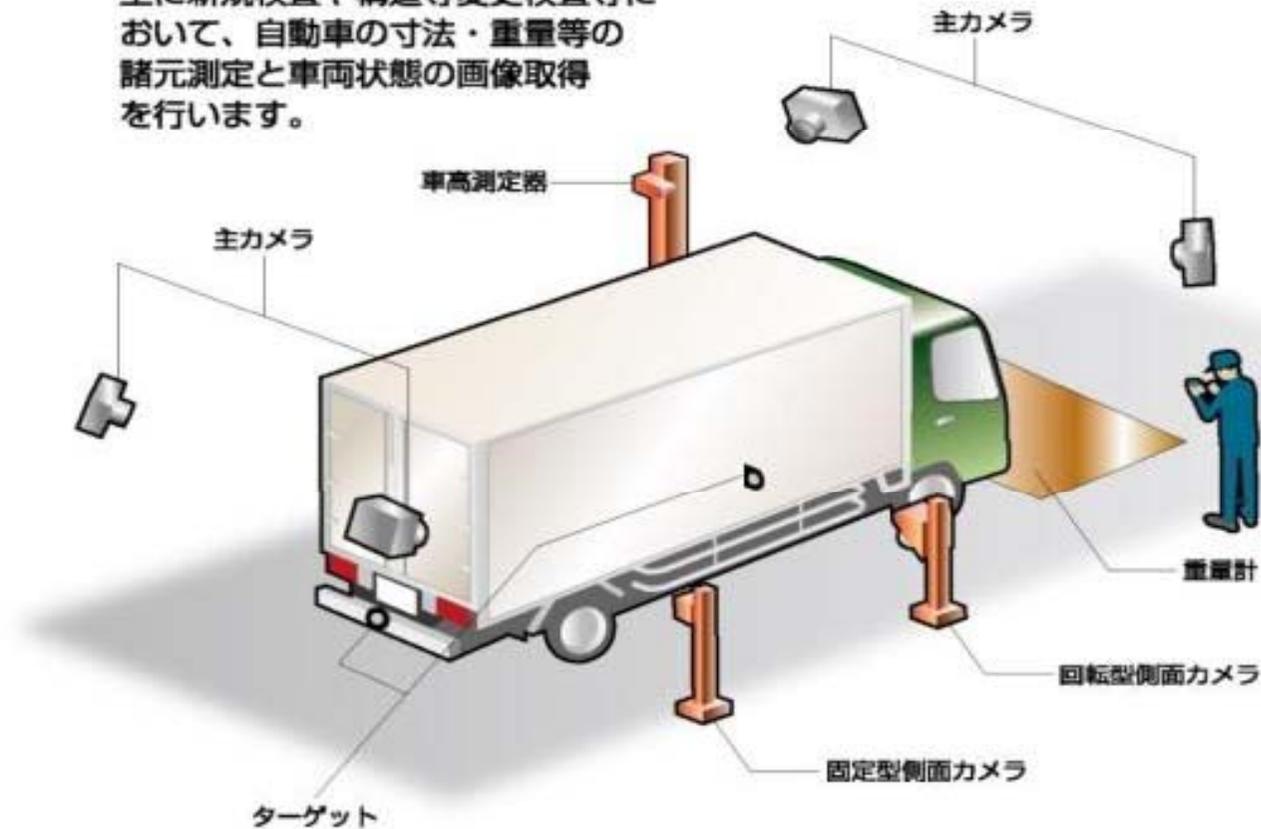
- ①新規検査等における車両の状態を画像等で取得する機器
  - ②検査結果等について電子的に記録・保存する機器
- 平成20年度から当該機器の導入を開始し、現在、運用中



# 検査場における検査(計測コース)

## 計測コース

主に新規検査や構造等変更検査等において、自動車の寸法・重量等の諸元測定と車両状態の画像取得を行います。



# 検査場における検査(保安コース)

**検査場における検査**

検査コースにおいて、検査車が最新の機器を使用し、1台1台の自動車を高効率よく検査します。

**事務所**  
国土交通省が検査申請の受付と検査合格後の自動車検査場の交付を行います。

**検査コース**  
自動車検査法人が保安検査場を運営しています。検査コースには、保安コースと新設コースがあります。

## 保安コース

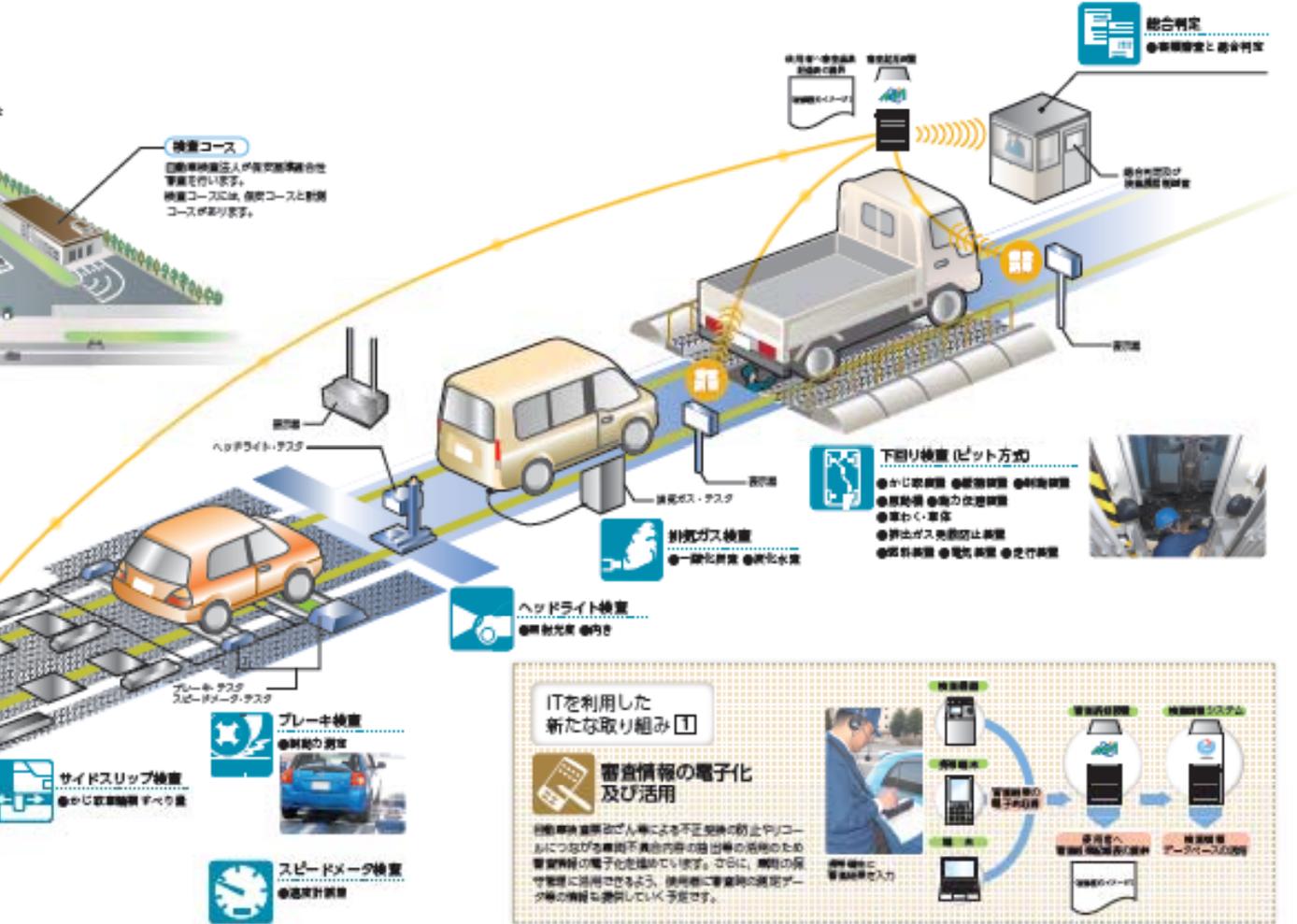
新設検査、経路検査、検査等更新検査等において、自動車の安全性、性能の向上を図るための検査を行います。

**検査コースにおける検査機器の配置と主な検査項目**

※検査場により、検査項目が異なる場合があります。

**外観検査**  
●車体・車名 ●保安装置 ●走行装置 ●車体塗装 ●打込装置 ●車体色 ●電気装置 ●検査記録

**同一性の確認**  
●車体番号 ●車体検査方式 ●車体色 ●車体形状 ●車体の形状



**各種の検査**

- 二輪自動車検査  
目撃検査等により実施します。
- 左折時点検検査  
目撃検査の検査官が実施します。
- 安全確認用検査  
自動車の安全性を確認します。
- 高圧検査  
ボルトの締め具合を確認して高圧を発生させます。

# 検査の高度化により得られる効果

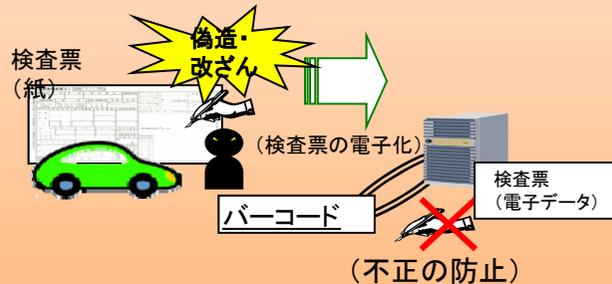
## 1. 二次架装などの不正改造車の排除

新規検査データを継続検査や街頭検査等において活用することにより、二次架装などの不正改造車を確実に排除する。



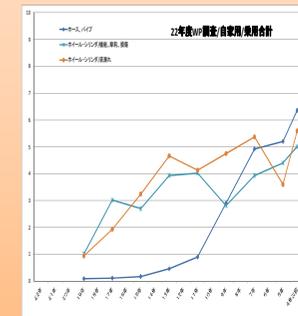
## 2. 検査データの電子化による不正車検の防止等

他事務所で不合格判定となった車両を受付けした際に警告を表示すること、及び紙の検査票によらず検査データを電子的に取得することにより、受検者による検査票の偽造・改ざんなどの不正車検を防止する。



## 3. 検査結果の統計処理等による検査の重点化、検査統計情報の提供等

検査結果を電子的に取得することにより、車種毎、型式毎、装置毎等の集計・分析等による検査の重点化や検査統計情報の開示を行うことによる有効活用の取り組みを行う。



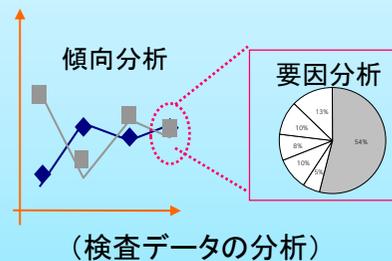
## 4. ユーザーへの検査結果提供による点検・整備の励行

ユーザーへの審査結果記録表の提供等により、点検・整備の励行を図る。



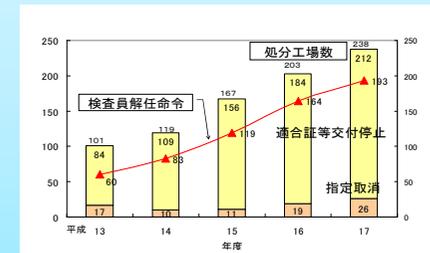
## 5. リコールに繋がる車両不具合の抽出 (主体:国)

収集した検査情報を分析することにより、リコールに繋がる可能性のある車両不具合情報を抽出する。



## 6. 指定整備工場に対する効果的・効率的な指導・監督 (主体:国)

受検車両情報等を監査工場選定に活用する等、IT技術の利用により、指導・監督を効果的なものとする。



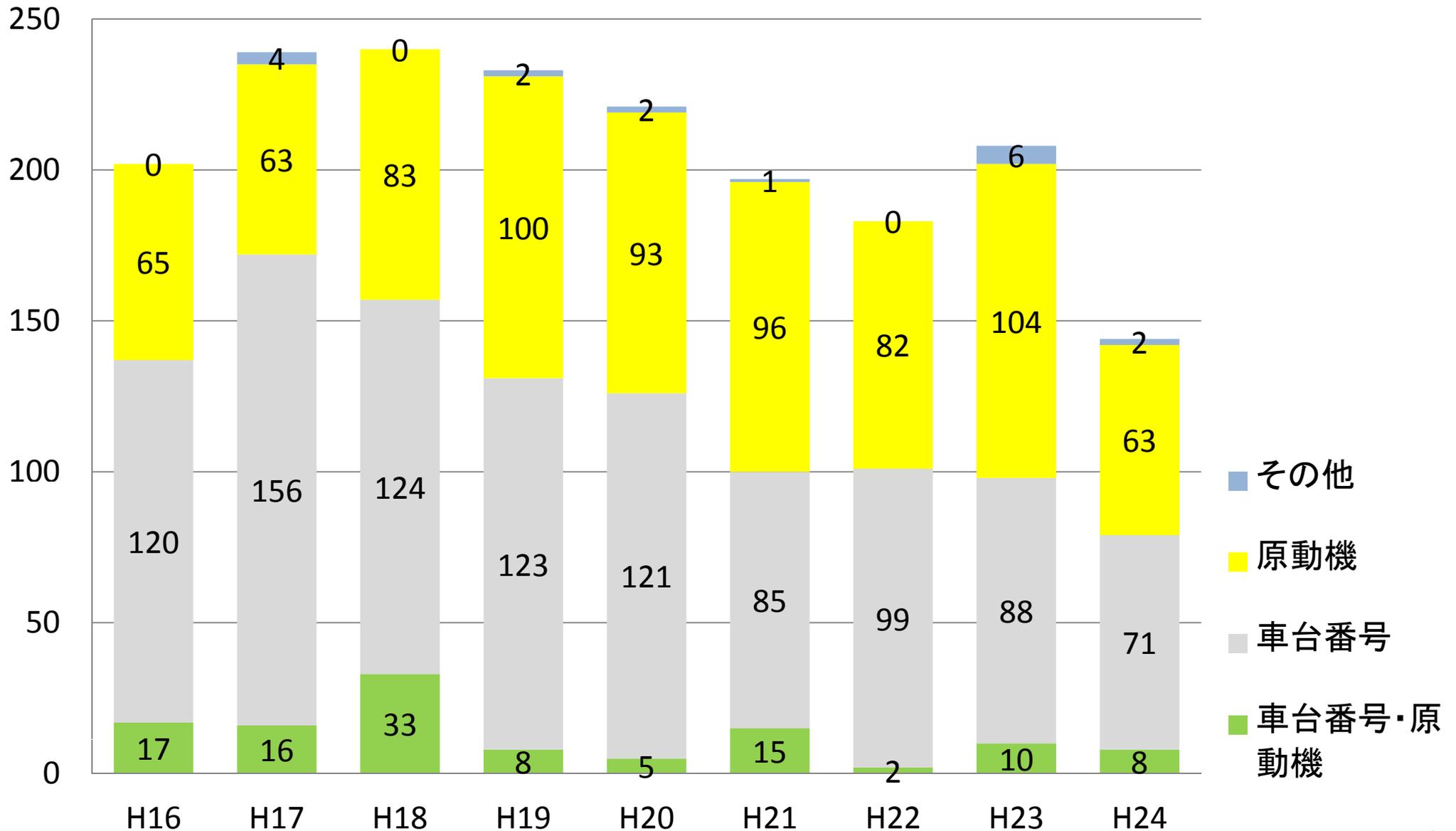
## 7. 審査機器の稼働状況を把握し、コース閉鎖時間等を考慮した検査機器の保守、管理

## 自動車関連情報の利活用への課題

- ① 各種のデータを共有するためには、紐付けるための車両固有のキーの共通化が必要。共通化にあたっては自動車が国際的な商品であることに留意が必要。
- ② 車両と車両固有の共通キーの紐付けの厳正性を確保する仕組みが重要ではないか。

なお、新規検査等は車両と車両固有の共通キーを紐付ける機会、継続検査は車両と車両固有の共通キーの紐付けが正しいことを確認する機会(なりすましを防止する機会)。検査法人はこれからもその役割を果たしていく。

# 自動車検査法人が発見した 不正打刻車両は平成24年までの9年間で1,867台



## 自動車関連情報の利活用への課題

- ③ 自動車関連情報の活用により、より効果的・効率的な検査が可能となるが、情報の取扱いに係るルールが必要。
- A) 検査法人における検査結果のデータに加え、自動車整備工場における点検・整備のデータが取得できれば、これを統計的に分析することにより、当該型式のウィークポイントを重点的に検査することができる。
  - B) 当該車両の事故・修復歴や使用実態のデータがあれば、関係部分に注意しながら検査することができる。
  - C) インターネットの活用も含め検査結果を自動車ユーザーに提供することにより、利便性の向上と保守管理意識の高揚を図ることができる。

## 自動車関連情報の利活用への課題

- D) 検査標章にICチップを搭載し、これにより自動車登録番号、自動車検査証の有効期間のデータを容易に収受できれば、検査の際の利用者利便の向上につながる可能性がある。
- E) 車両が自己診断した不具合情報を通信等により取得して検査に活かす試みは既に一部開始しており、これが発展すれば検査を遠隔で行う等の効率化を図れる可能性はある。しかしながら、検査項目には摩耗や劣化等目視・感触によるべきものもあり、全ての検査項目に適用することはコスト的・技術的に困難ではないか。